

AI 活用で挑む学問の革新と創成
2022 年度採択研究代表者

2022 年度
年次報告書

内藤 識

早稲田大学 大学院法学研究科
大学院生

公共分野での「信頼される AI」活用に向けたシステムの創出

研究成果の概要

初年度となる 2022 年度は、10 月に実施された 37th Nordic Conference on Law and Information Technology Phd workshop にて、まず、本研究の問題関心・目的・方法論を発表した。そこで法と AI を専門とする欧州の研究者からのフィードバックを得るとともに、休憩時間等での意見交換を経て今後の研究の方向性を点検した。

次に、本研究が当初対象としていた法・技術的システムに当てはまるわけではないが、デンマークにおける自然言語資源構築のあり方に関して、3 月に実施された第 29 回言語処理学会ワークショップにて発表した。この発表では、最初に、(3 月中旬時点での) ChatGpt-4 の日本法に関する知識は、不正確であることを司法試験短答式問題の結果を用いて示し、国によって異なる専門知識に関しては、今後構築していくことが急務であることを述べた。具体的な言語資源構築方法やそのサポート方法に関しては、デンマークにおいてはデンマーク語の言語資源を一元化するサイトがあることや、そのサイトに言語資源を公開するためのサポート体制があることを紹介し、日本においてもこうした体制を作ることを検討する価値があることを述べた。